

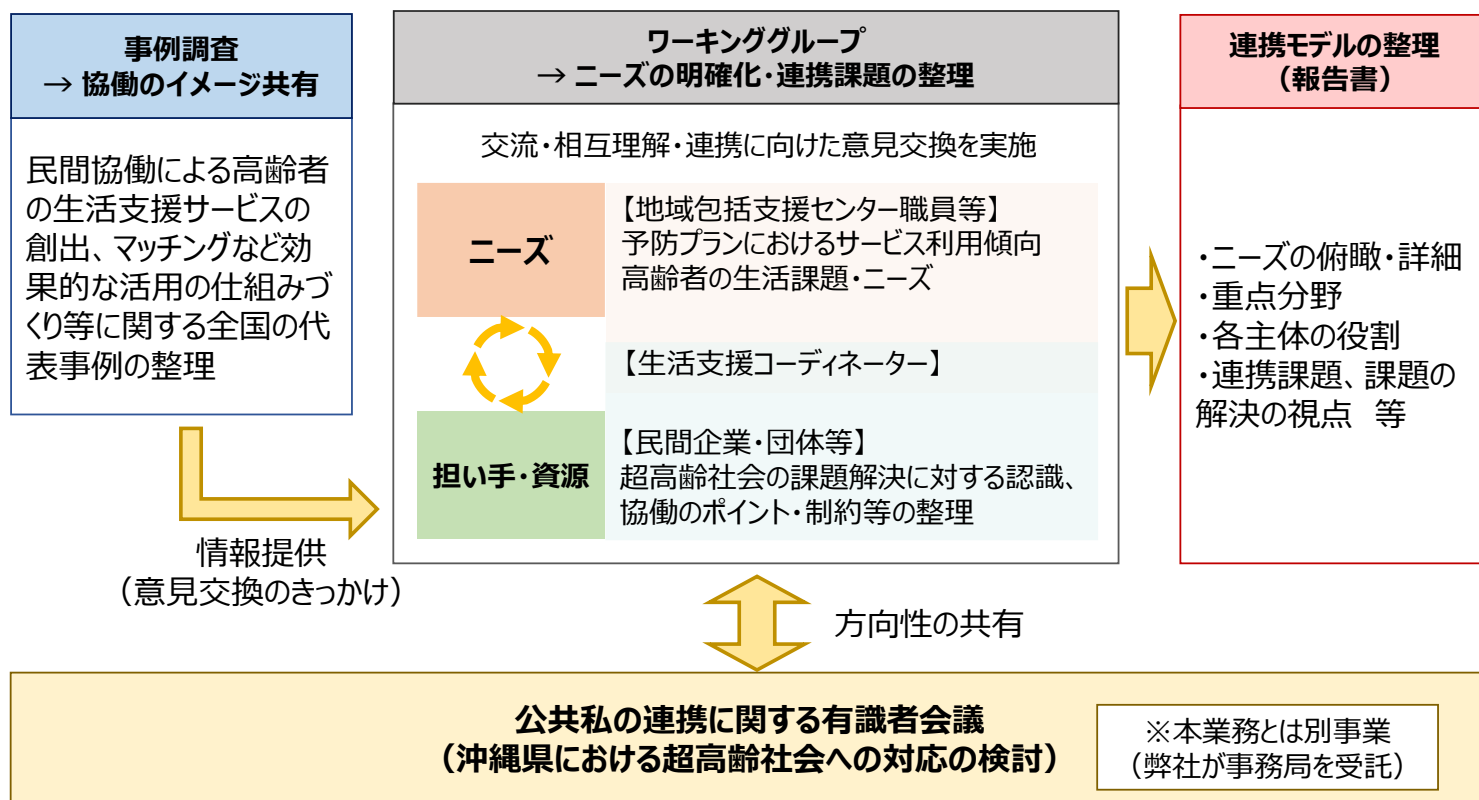
2025. 1.22

高齢者の生活課題の解決に向けた 官民連携ワーキンググループ 第2回

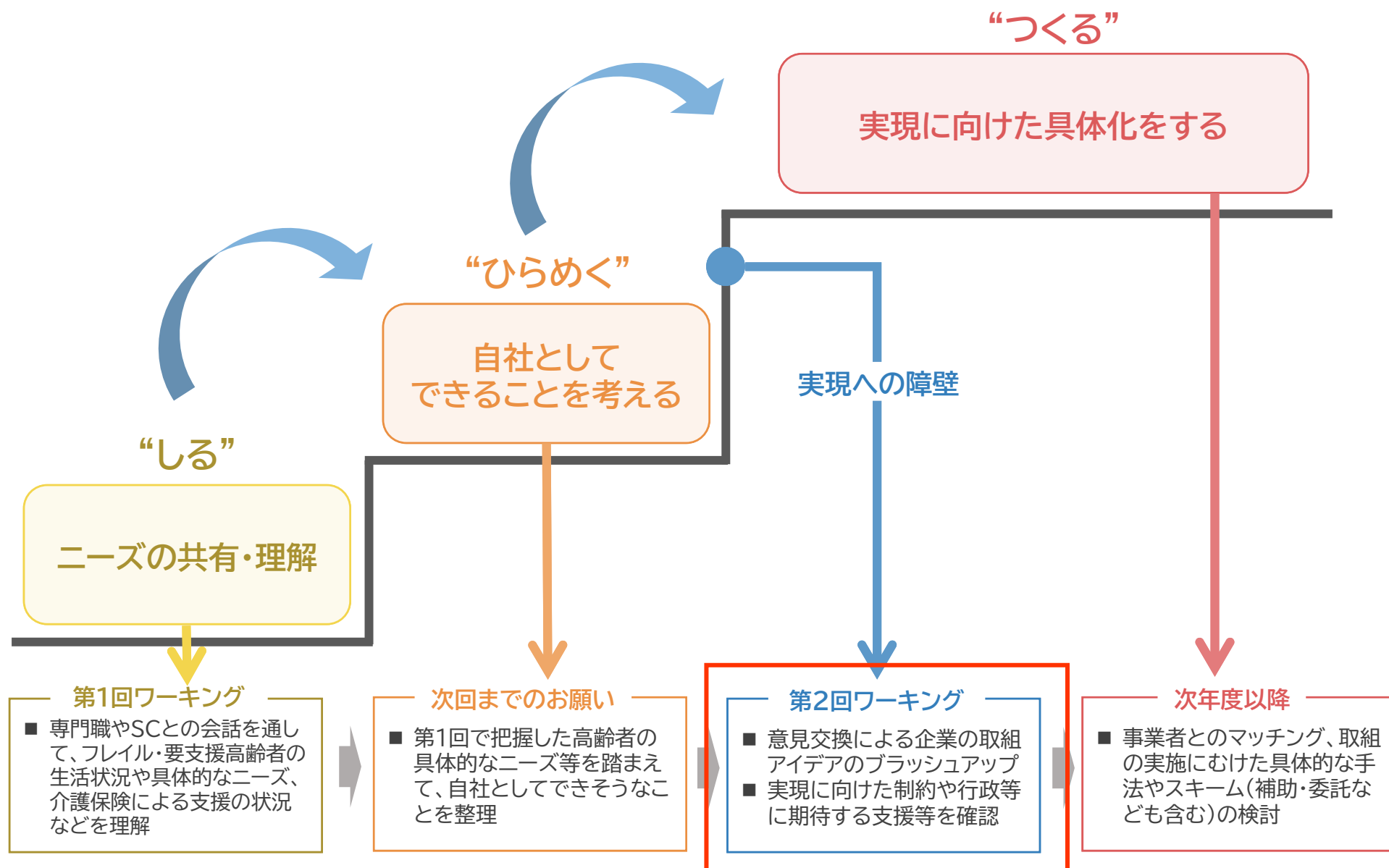


官民連携ワーキングとは

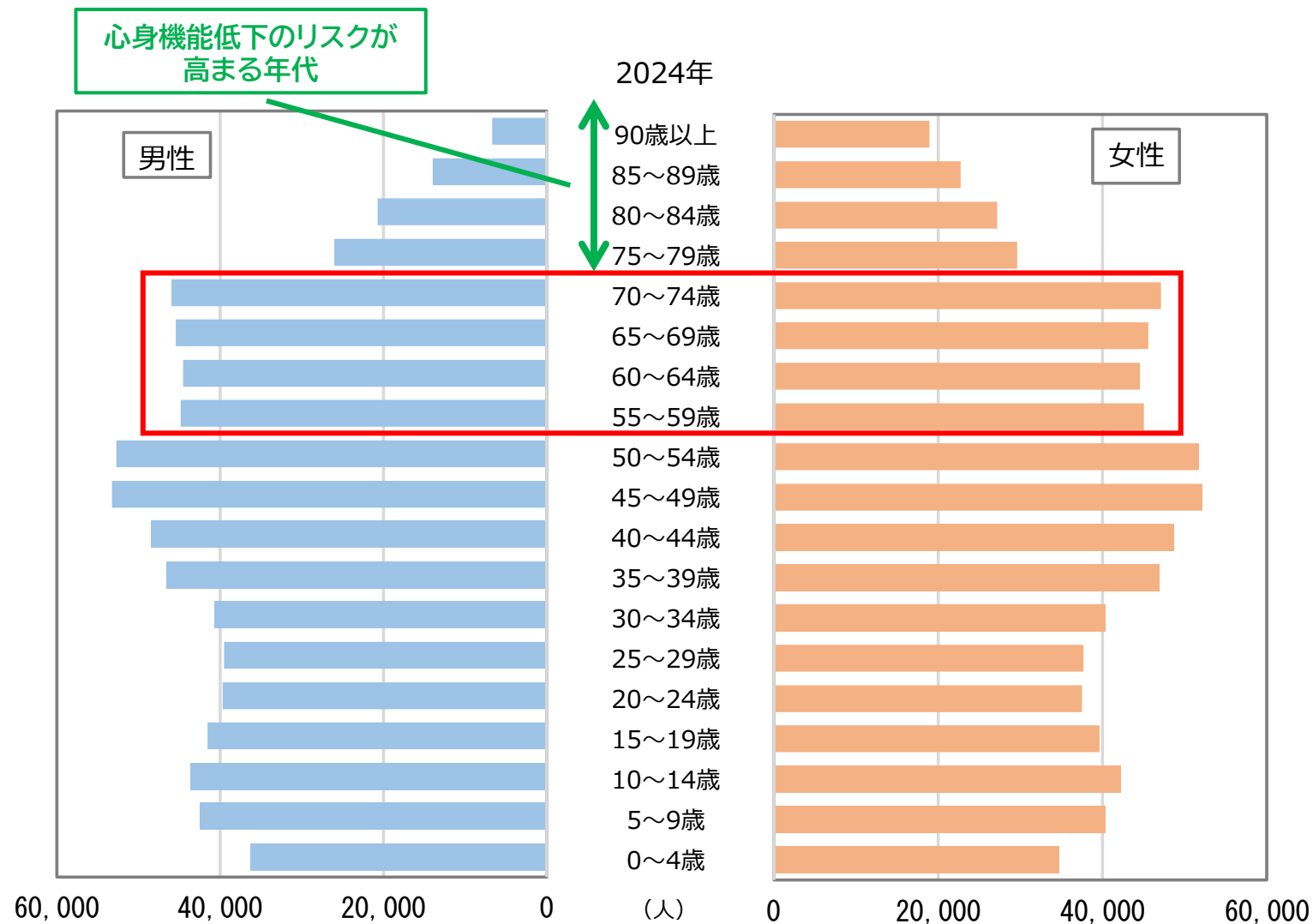
ワーキングでは、高齢者のニーズや地域の課題に詳しい地域包括支援センターの職員及び生活支援コーディネーターの意見を参考に、民間企業の皆様と、超高齢社会に対応するサービス開発の可能性及び事業化に向けた課題解決の糸口を整理していく予定です。



官民連携ワーキングの流れ

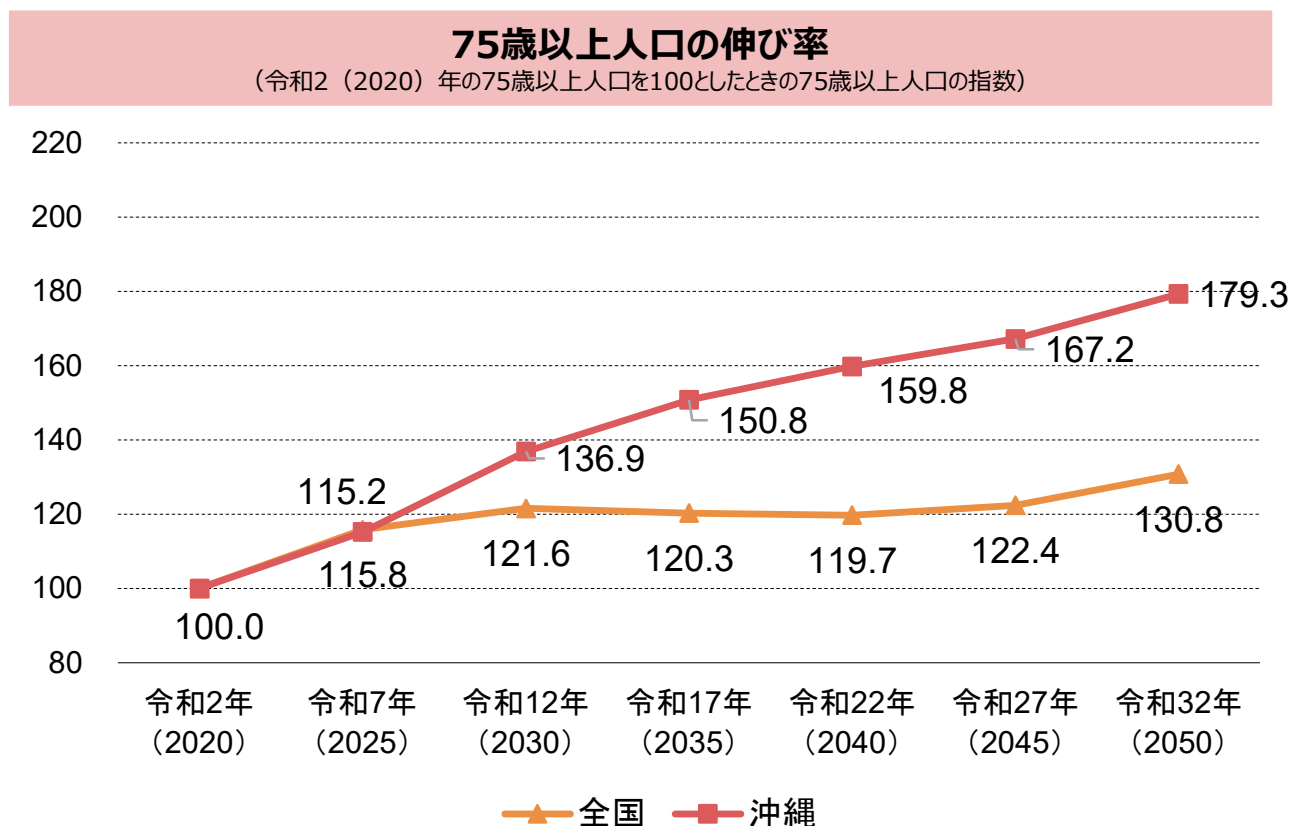


ちょっとした不調を抱えながら地域で生活している高齢者が増える



75歳以上の長期的増加は沖縄県の特徴

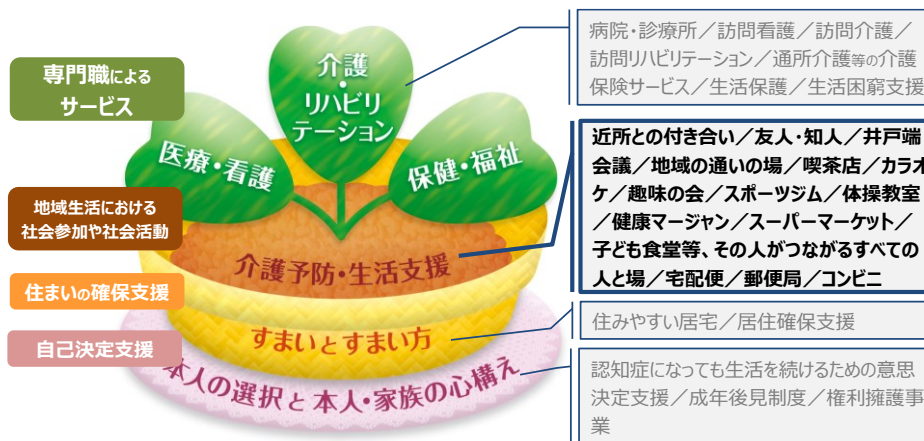
- 75歳以上人口については、全国では令和12(2030)年頃をピークに増加が落ち着き、一旦減少に転じるが、沖縄県では引き続き増加し続けることが見込まれている。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」 「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」より作成
注釈：令和2(2020)年国勢調査の確定数を基準とした全国将来人口推計より出生中位(死亡中位)推計を参照

介護予防・生活支援とは？

大まかに分ければ、以下の2つが必要



出典：植木鉢の絵：三菱UFJリサーチ&コンサルティング「地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方に関する研究事業報告書」（地域包括ケア研究会）、平成27年度老人保健健康増進等事業に、岩名礼介（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）が加筆。

1 日常生活上のサポート

- 掃除・買い物・配食・送迎・同行・ペットシッター・模様替え等の生活支援サービス

→介護保険では**ホームヘルプ(訪問介護)**に近い

2 通い、参加できる場所

- 運動・共食・学び・体験・農業・創作・対話の場など、社会参加や介護予防につながるサービス
- 体に不調を抱えた高齢者でも利用し続けられる（顧客であり続けられる）店舗やサービス

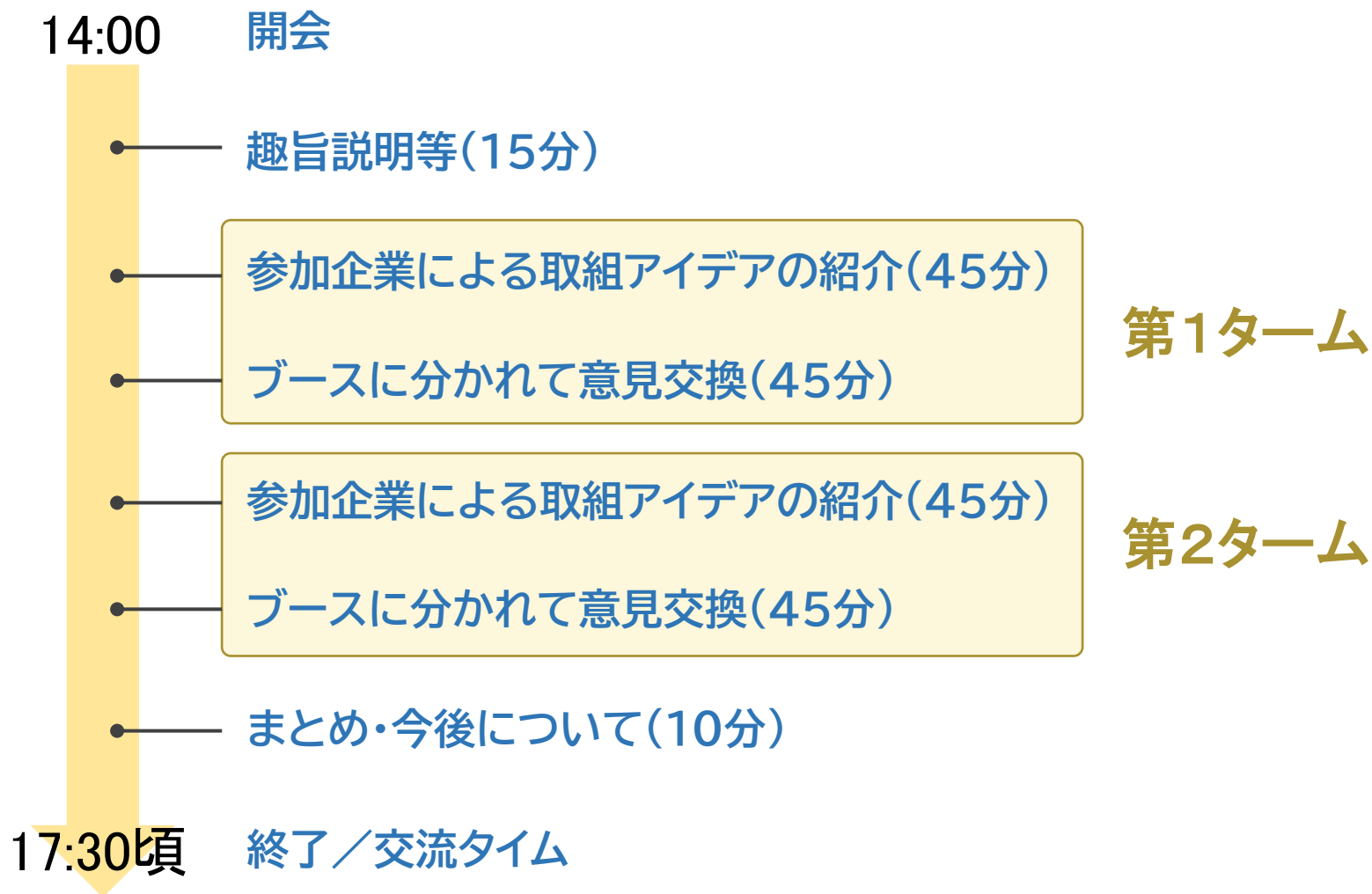
→介護保険では**デイサービス(通所介護)**に近い

意見交換のヒント(事前ヒアリング・アンケートより)

	要素	課題や論点の例(アンケート・ヒアリングより)	企業のアイデア	実現への課題(必要な支援)
ホームヘルプ	見守り	- 高齢者の状態の変化への気づき・情報共有 - 離れて暮らす家族への情報共有 - 緊急時の駆けつけ		
	掃除・洗濯・ベッドメイク等	- 様々な組み合わせでの実施ニーズ - 介護保険では対応できないニーズがある - 顔見知りの人が支援することへの抵抗感 - ボランティアによる助け合いをマッチング・コーディネートする機能 - 既存サービスの周知や利用拡大		
	食事・調理・買い物	- 調理経験がない男性の一人暮らし - 弁当などの栄養面の懸念 - 美味しさ、バリエーション - 買い物の荷物の持ち帰り(重さ) - 心身機能が低下した状態での買い物(安全な環境、サポート) - ネット注文が難しい - スーパー等への移動手段		
デイサービス	運動・交流・アクティビティ	- 心身機能が低下した人が安心して参加できる環境・プログラム - 働く場や就労的な要素のある活動へのニーズ(相性の確認、マッチング) - 企業活動、地域活動への高齢者の参加機会 - 短時間で参加できる負荷の少ない活動 - 高齢者同士の交流やコミュニティ形成 - 運動や交流等ができるスペースの確保 - 生活支援との一体的な提供(買い物+運動など) - 活動場所までの移動手段		
	入浴	- 身体機能面でサポートが必要なケース - 自宅の浴室環境が十分ではない - 入浴施設、スポーツジム等への移動手段		
共通		- スマホ・インターネットの利用、契約や手続きのハードル - 移動手段、費用負担		

第2回で
意見交換

本日の流れ



取組アイデアの紹介について

- 取組アイデアの紹介時間は**1社あたり5分**です
※事前に申し出のあった企業は10分

第1ターム

hareruya

office双葉

フィットネスプロモーション

リウボウストア

JAおきなわ

グランアーク

沖縄ヤマト運輸

第2ターム

サンジュ

コープおきなわ

サンエー

沖縄交通

日本郵便

ファンファーレ・ジャパン

みやぎ農園

本日のゴール

取組アイデアを紹介いただく企業の方

- ・ 取組アイデアの有効性・妥当性を確認できる
- ・ 取組アイデアを具体化するためのヒントが得られる

自治体・地域包括等の方

- ・ 企業が有するリソースや課題意識を確認できる
- ・ 企業との連携イメージが膨らむ

事務局

- ・ 取組アイデアを実現するための制約や必要な支援を確認できる

交流を通してつながりができる

参加者の皆さんへのお願い



取組アイデアを紹介いただく 企業の方

- 自治体や地域包括の方との意見交換を通して、アイデアの感触を確かめたり、より高齢者に利用される内容へと改善するためのヒントを得てください。
- アイデアを実現するための課題や制約、連携したい相手、自治体や地域包括等に求める支援等について、積極的に教えてください。



自治体・地域包括等の方

- 企業の方から紹介いただいた取組アイデアについて、より高齢者の生活に役立つ(利用される)ためには、どのようにすればいいか、積極的にコメントをお願いします。
- 「気づきメモ」(次頁参照)に記載のある各視点について、気づいたことを具体的にメモしてください。

注意

※今回ご紹介いただく取組アイデアについては、必ずしも企業の皆様に実現をお願いするものではなく、あくまで第1回ワーキングを踏まえて検討したアイデアです。

「気づきメモ」: 意見交換の視点

視点① ホームヘルプやデイサービスの機能を代替し得るか？

- ✓ 元気な人だけでなく、フレイルや要支援の人が利用できそうか
- ✓ 現在ホームヘルプやデイサービスが提供している機能の一部を代替するか
 - 【ホームヘルプの機能】
 - ・ 見守り、掃除、洗濯、ベッドメイク、食事、調理、買い物 等
 - 【デイサービスの機能】
 - ・ 運動、交流、アクティビティ、入浴、食事、（移動） 等

視点② 高齢者の社会参加・介護予防に資する内容であるか？

- ✓ 取組によって高齢者の介護予防や社会参加が促進されるか
- ✓ 取組の担い手（働き手）として高齢者が参画する可能性はあるか

視点③ 実現性・持続可能性は見込まれるか？

- ✓ 高齢者に受け入れられる内容であるか（費用面、内容面）
- ✓ 取組の担い手や連携先は想定できるか
- ✓ 市町村や地域包括等とどのような連携を行うことができそうか
- ✓ 広域的な展開ができそうか、あるいは地域を限定した取組であるか

記載いただいた「気づきメモ」は終了時に回収します！

～意見交換の流れ～

①取組アイデアを聞いて、関心を持った企業のブースへ移動

②企業の方と参加者で意見交換

1. 企業の方から参加者に聞いてみたいことがあれば、冒頭に投げかけてください
2. 参加者の方は「気づきメモ」に記載した内容をもとに、質問やコメントを行ってください

- 意見交換は各チーム45分間を予定しています
- 時間内のブース移動は自由です(※少なくとも2ブースは回ってください)

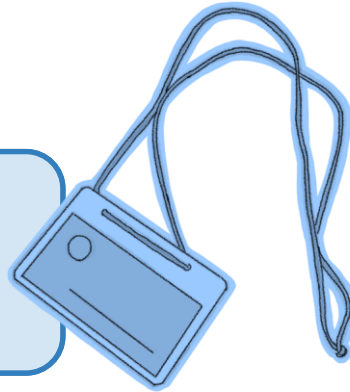
発表企業の方は様々な検討を通して、自社としてのアイデアを紹介されています。

参加者の皆さんとの意見交換を重ねることが、より有意義な取組の検討につながります。

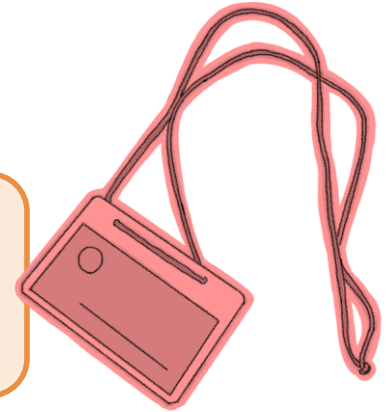
全員が「参加者」として、気になることがあれば遠慮なく、
積極的に意見交換に加わってください！

本日の参加者について

企業



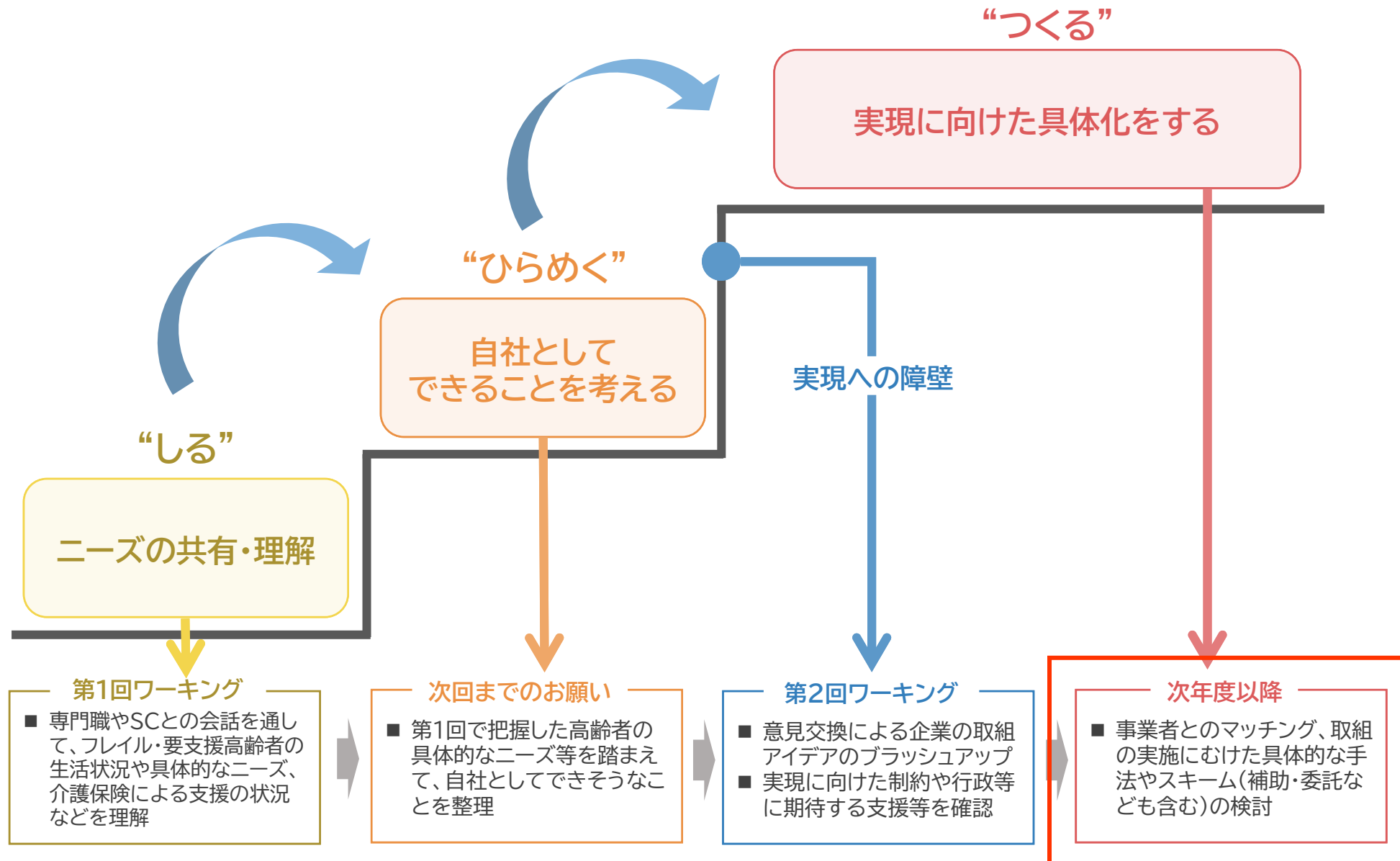
自治体
地域包括支援センター



事務局



次年度は“つくる”のフェーズへ



官民連携プラットフォームの構築

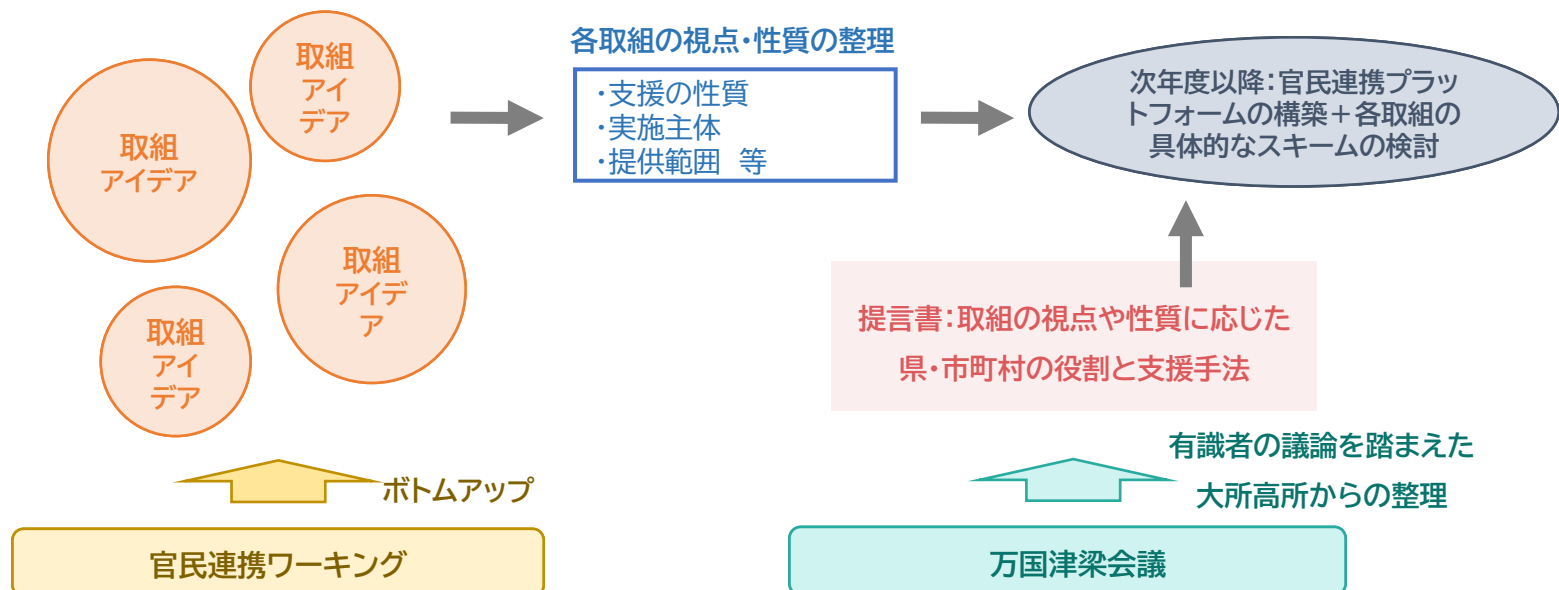
- ・ 官民連携ワーキングの成果と万国津梁会議の議論を掛け合わせ、官民連携プラットフォームを構築し、各取組の具体的な検討を推進

- ・ 官民連携プラットフォームの構成は二層に分けることを検討中

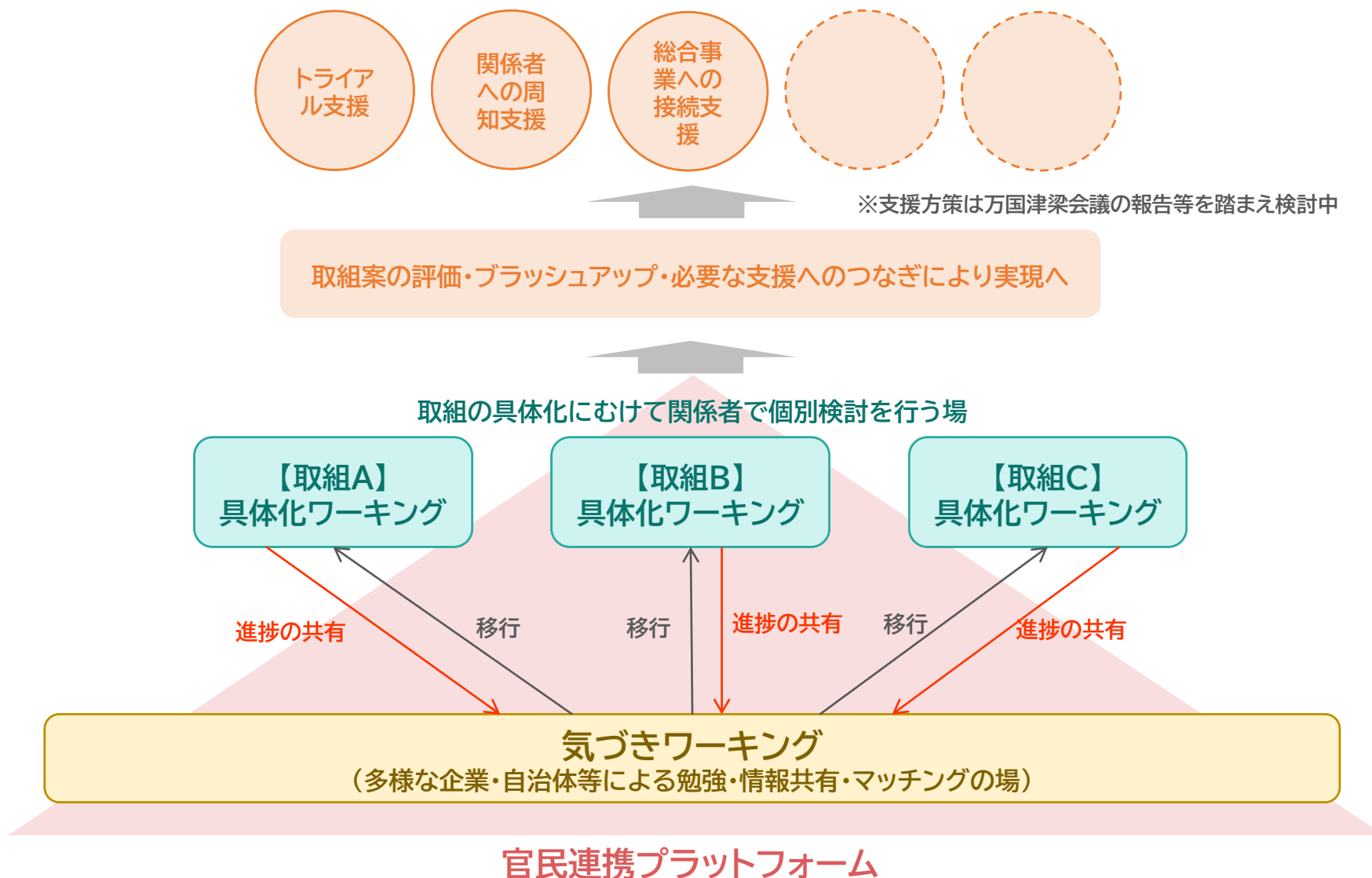
(最終的には令和7年3月に予定される万国津梁会議の提言内容を踏まえて決定)

- ① 気づきワーキング(継続) : 新たな参加企業も加えた全体会合の場及び取組事例の共有の場
- ② 具体化ワーキング : 各取組の事業化等を個別に検討する場(リアルとオンラインの併用)

※名称は仮



官民連携プラットフォームの構成



具体化ワーキングについて

関係者とのチームアップ

- ・ 取組アイデアに関心を有する関係者に限定した検討チームを設置（企業、市町村、地域包括支援センター等）
- ・ 連携が望まれる企業とのマッチング

取組アイデアの具体化支援

- ・ 高齢者のニーズ・課題に関して、市町村や地域包括支援センターに質問・確認しながら検討が可能（アイデアに対するフィードバック）
- ・ 実現に向けた制約の解決手段の検討
- ・ 生活支援コーディネーターと連携し、必要な地域資源とのマッチング

取組アイデアの実現支援

- ・ 市町村や地域包括支援センターと連携したトライアルの実施
- ・ 取組の性質に応じた周知支援や総合事業への接続

連携・協働を通してつながりを強化

当面の流れとお願い



①第2回ワーキングでの意見等を還元

- ・ 本日「気づきメモ」に記載いただいた内容や、それらを踏まえた事務局からのコメントを合わせて各企業に還元します

②今後に向けた意向確認

★必要に応じて面談

- ・ 今後の取組の具体化に対する意向の確認
- ・ ①を踏まえた取組アイデアの改善方策の検討
- ・ 具体化に必要な支援の確認

③具体的な検討の開始

- ・ ②を踏まえて具体化を進める取組は「具体化ワーキング」に移行
- ・ 「気づきワーキング」は希望に応じて誰もが参加可能